

唐松尾山遭難(2017年9月)

70代、男性。甲武信ヶ岳～雲取山間の唐松尾山付近で道迷い。釣りに来ていた2名が8日ぶりに偶然発見し、一緒にビバーク。翌日男性はヘリで救助された。



解説

釣り人2名が笛の音を聞いた後、動けない男性を発見。寒がっていた男性に暖かいコーヒーやイワナの塩焼き、食事を与え一緒にビバーク。翌日に携帯電話がつながる出会いの丘まで釣り人2人が食料を残し下山。救助要請を行い、男性はヘリで救助された。

男性は、登山歴50年。軽装で山梨県側の西沢溪谷から入山し、甲武信ヶ岳～雲取山まで3泊4日で縦走する計画をしたが、宿泊予定の山小屋が営業していないことを知らなかった。また、登山計画書の提出はなかった。(HP参照)

唐松尾山周辺では過去にも道迷いが発生している場所。主尾根の縦走をするためには予想以上に唐松尾山山頂で方向を変えないといけない。このような登山道は道迷いパターンの代表的な地形である。特にこのような場所では、体の中のイメージと実際の方向を一致させないと真っすぐ進んでしまい違った尾根に迷い込んでしまう。また、主尾根の縦走において、違う尾根に道迷いした場合は標高を急激に下げることが多く、すぐに気づくはずなのだが、道迷いの心理はそれを許さない。「あれっ、おかしい?」と思った時が「道迷い」と「遭難」のターニングポイントになる。根拠なく行動をしているときは遭難に近づいている証拠である。